

入選

待つ心

三重県 西朝明中学校 2年 豊田 獅童

私はある日、部活の帰り道に家の近所の道を歩いていました。すると、遠くの方から、ご年配の男性と、幼稚園くらいの女の子が歩いてきました。家が近かったこともあり、2人のことを何度か見かけたことがありました。2人でよく公園で遊んでいるのを見かけたことがあったので、きっとおじいちゃんとその孫なのだと思っていました。

その日はとても暑い日でした。だから、2人とも帽子をかぶっていました。2人がかなり近くまで歩いてきたので、私があいさつをしようとしたときでした。男性が帽子を一度取って汗を拭いたときに、その帽子が地面に落ちてしまいました。

すると、女の子は、

「よいしょ。」

と言いながら、その落ちた帽子を取ろうとしました。ゆっくりと、小さな手を伸ばして帽子を拾いました。この行動は、誰から見ても親切な行動であるでしょう。ですが、本当に親切だったのは男性の方だと思いました。

もちろん、女の子は親切で帽子を拾ったに違いありませんが、その間に男性は自分で帽子を拾うことができたような気がしました。ですが、自分の孫ががんばって拾ってくれようとしているのに、それを待たずに自分で拾ってしまったのは、意味がないと考えたに違いありません。女の子は、帽子を男性に渡したあと、笑顔でした。私は、その光景を見ているうちに、あいさつをするのを忘れてしまいました。

家に帰ってから、もう一度、ついさっき起きたことを考えていると、帽子を拾ってあげた女の子も、親切を親切で返そうとした男性も、どちらともすごい人だと思いました。特に、この男性のように、「人の気持ちを考えて時間を使うことができる」ということは、なかなか簡単にできることではないと思いました。

私は、近頃せっかちな人が増えてきていると思います。私もせっかちな人間だと思います。「せっかち」というのは「時間を大切に使う」という言葉に置き換えることができると思います。それは、よいことでもあるでしょう。ですが、「時間」よりも「人の心」を尊重すること、つまり「待つ心」も、ときには必要だと考えました。